

TDM推進委員会見聞録 (第貳章)

第2回TDM推進委員会が行われました

第2回TDM推進委員が、平成16年10月6日(水)14:00より、相模原市役所の第3委員会室で行われました。

前回は「TDMワークショップ」(以下「WS」という。)の進行状況や、県道54号(相模原・愛川)の混雑状況などを事務局から説明を行い、委員一同で議論が交わされました。

今回は、各種の調査結果などを事務局から説明を行った後に、マイクロシミュレーションソフトを用いて自動車交通状況を立体的に表現する、現況再現シミュレーションが発表されました。



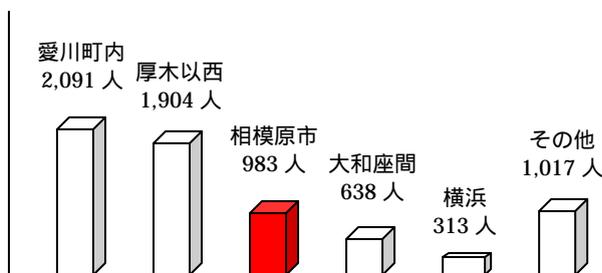
議題について

高橋委員長の進行により議題が進められました。以下その内容を掲載します。

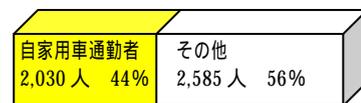
(1) 周辺企業へのアンケート調査結果

愛川町にある内陸工業団地(従業員100名以上の23事業所)と田名工業団地(三菱重工業(株)、新カワセラ三菱(株))に対して行われたアンケート調査の結果が発表されました。

内陸工業団地については、従業員約7千人のうち、約1千人が相模原市内からの通勤者で、自家用車通勤者数は約53%に上ります。



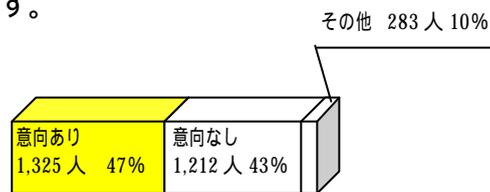
また、田名工業団地については、従業員約4.6千人のうち、約3.2千人が相模原市からの通勤者で、自家用車通勤者数は約44%に上ります。



(2) 周辺企業及び市役所職員の自動車通勤経路

三菱重工業(株)、新キャスター三菱(株)及び市役所職員の自家用車通勤者は、合わせて約2,8千人にも上ります。しかし、時差出勤の意向がある方は47%もいるので、TDM施策の環境が整えば、交通量の分散につながる可能性が十分にあります。

	自家用車通勤者
三菱重工業	約1,200人
新キャスター三菱	約820人
市役所	約800人



時差出勤の意向調査

(3) 交差点方向別交通量

高田橋と上溝バイパス交差点、上溝交差点の方向別交通量の調査結果の報告がありました。各交差点で交通量の特性が違い、交通量が集中する時間帯が朝、日中、夕方と様々です。

(4) 迂回に使われている水郷田名地区における事故発生状況及び住民活動について

朝の通勤時間帯の渋滞を避けるために、水郷田名地区の住宅街を迂回路として通行する車両が多く、過去1年間だけでも**人身事故が10件、死亡事故が1件**発生しています。また、自治会、子ども会等が交通規制を実現させるため、署名活動や交通量調査を実施しました。

(5) バスの利用状況、利用者数、世論調査について

平成15年12月にバス路線の再編成が行われましたが、水郷田名地区については、運行本数の増加とともに、利用者数も増加しています。

また、田名地区は他の地区に比べて、バスの利用頻度が高いので、再編成に対する関心も高く、「便利になった」という方が多い一方で「不便になった」という方も多いようです。

(6) OD調査及び交通量調査、環境データについて

自動車交通の起点と終点を個々に調査するOD調査と、未調査の交差点の交通量調査を行うことになりました。また、沿線の環境データを把握して、TDM施策実施の前後で効果を検証することになりました。

(7) WSの報告

WSで抽出された施策が説明されて、今後絞り込みのための住民アンケート等の実施について報告がありました。

(8) 現況再現シミュレーションについて

東京海洋大学の学生により、高田橋周辺の現況再現シミュレーションがお披露目されました。トラックや乗用車などがグラフィック上の高田橋を通過しようとして、車が混雑していく様子が表現されていました。

(9) その他について

詳しい会議録は、相模原市ホームページの「審議会等の情報」よりお入りください。次回は12月9日(木)に開催されます。